

エコ・たまがわ

多摩川エコミュージアム・ニヶ領せせらぎ館-情報誌

編集:印刷 特定非営利活動法人
 多摩川エコミュージアム
 [代表理事・北島 信夫]
 連絡先:ニヶ領せせらぎ館
 〒214-0021 多摩区宿河原 1-5-1
 Tel/Fax 044-900-8386
 No. 75
<http://www.seseragikan.com>

もう一つのニヶ領用水

竣工400年のニヶ領用水②



■多摩区生田にある生田浄水場の一画に、とてつもない「優れもの」が稼働している。超高速凝集沈でん池(写真左)だ。フランス生まれで、最新鋭の沈でん処理技術。4年前に導入されたが、もちろん日本初、いまも最大だ。今まで、日量20万トンの原水を処理するのに2時間13分の滞留時間を要したというのに、なんと18分という超スピード。

■ここで超高速処理された工業用水は、市内道路下に埋設された工業用水道2号送水管を流れて、幸区上平間の平間配水所へ。ここで6台の送水ポンプで、市内各種の工場へと配水される。市民の目には直接見えないが、まさに、「もう一つのニヶ領用水」が、市域を縦断して流れているのだ。農業用水の役割を終えたが、工業用水として工業都市、産業都市川崎を支えて、生き続けている。「ニヶ領用水は不滅」なのだ。



上河原堰堤で多摩川から取水 ⇒ 稲田取水所の取水施設 ⇒ 稲田取水所の沈でん池へ⇒

処理施設の設置面積も大幅に縮小されたという。

■上河原堰で堰き上げられニヶ領用水に入った水は、昭和になってから、いまも工業用水として使用され、その水量も日量20万トンに達しているのだ。



⇒多摩区の生田浄水場で、工業用水に加工 ⇒ 2号送水管で平間配水所へ送水

【出典】川崎市上下水道局編・「川崎市の工業用水」・『川崎市水道史』



⇒6台の強力送水ポンプで各種工場へ

[写真と文・長島 保]